

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所MAIN		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2025年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2025年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性・状況に応じた支援	社会性やコミュニケーションの基礎に焦点を当てて支援。同じプログラム内でも、それぞれの課題に合うように一人ひとり異なるアプローチで支援をしています。こどもの状況を鑑みて、小集団、個別など最適な支援を組み合わせ提供できるよう、個別支援計画を立てています。	基本の方針はそのままに、こどもの発達にアプローチする様々なプログラムを考案、実施中です。様々な動きを経験していくことで脳に刺激を与えつつ、「出来た」と感じられる体験もセットで積ませています。
2	保護者へのサポート体制	保護者からご要望があった際や、事業所が必要と判断した際には適宜面談を設定して、助言と支援を行っています。電話等での相談に対しても、可能な限り即時対応するように努めており、必要に応じて他機関と連携しながら対応しています。	今後は、課題やニーズに応じた勉強会の開催も検討しているのと、他機関との連携を更に深めていきたいと思えます。インスタグラムも開始したので更新回数も増やしていきたい。
3	児童及び保護者様から非常に高い満足度の評価をいただいています。	お子様・保護者様の心の声に耳を傾けることを第一に考え、本来持っている「力」を活かし、個々の「ペース」を大切にするという考えを、すべての従業員が意識して支援を行っています。	保護者様からの声を施設として大切に、現状に満足せず、出来る範囲でのサービス向上を心掛けていきたいと思えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・こども園や保育所、幼稚園との交流ができていない。 ・並行利用をしている子どもの連携がこども園、幼稚園、保育所との間で図りにくい現状がある。	・こども園や保育所、幼稚園との交流をする時間が作れていない。	・施設側と事業所側だけでは話が進みにくいので市町村や公的団体の力を借りることができないか、役場や地域自立支援協議会にも提案し、改善の取り組みを行ってきたい。
2	・ご家族に対してペアレントトレーニングや家族へ向けての研修会ができていない。 ・保護者会など家族が交流できる場を作ることができていない。	・事業所内でペアレントトレーニングを実施しようとすると職員の技術と人員増員が必要となる。現時点では、子ども達の療育をしっかりと行うことに専念しています。 ・保護者間での交流を実現するには、しっかりとした体制作りと配慮が多く必要となる。	・ペアレントトレーニングができる人材を確保したい。 ・安全に保護者間交流ができる体制づくりを考えていきたい。
3	・第三者委員会など外部の機関を運営に取り入れることができていない。	・外部機関とつながるようにする体制づくりの時間の確保と情報収取が難しい。	・市町村や公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをしていきたい。 ・各事業部と連携し、法人として自己評価を行いたい。